

# 2017 年度自己評価及び学校関係者評価公表シート

## 桑園幼稚園

### 1. 園の教育目標

ともに育ち、ともに生きる

### 2. 2017 年度の重点目標・計画

- ①「ともに育ち、ともに生きる」者として、幼児の成長を支え、保育者自らも成長できるよう、ともに育ち合うことを願い保育を行う。
- ②日々の生活の中で、子どもが神さまに愛されていることを感じ、安心と信頼を感じながら生活することができるように、保育者自身が祈りと感謝をもって保育する。
- ③保育者が幼児一人ひとりの人格、個性、育ちを尊重しながら保育を行う。
- ④保育者同士も学び合い、信頼し合い、保育者集団として成長できるよう努力する。

### 3. 評価項目の達成および取り組み状況

区分	項目・内容	評価	理由・課題
1 教育課程 指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園の建学精神や教育目標を理解している</li> <li>・ キリスト教保育指針の精神を理解し日常の保育に生かしている</li> <li>・ 幼稚園教育要領の精神趣旨を理解して日常の保育に生かしている</li> <li>・ 教育課程を理解し、指導計画を立てている</li> <li>・ 幼児の成長発達に適した環境構成をしている</li> <li>・ 安全で清潔感のある環境構成をしている</li> <li>・ 幼児の発想、自主性を取り入れ、季節に応じた楽しい環境構成をしている</li> <li>・ 保育実践の反省、評価を定期的実施し、次の保育と計画に生かしている</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キリスト教保育について一から学び、一人ひとりが神さまに愛されていること、私たちも愛し合うこと、日々の生活、自然の恵みも神さまからいただいたものとして大切にすることなどを、子どもと共有しながら保育を行った。</li> <li>・ 聖書の学びでは、以前より理解が深まったように感じた。今後もさらに理解を深めていけるよう、積極的に学びの場に参加したい。</li> <li>・ 教育課程を職員間で確認し見直しをすることで共通の理解を持つことができた。</li> <li>・ 日ごとに保育を振り返り、反省を繰り返しながら、保育の計画や環境構成の工夫を行った。</li> <li>・ 幼児のどこを育てたいかを意識して保育を考えるようにした。</li> </ul>
2 保育内容 幼児への対	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園内に危険がないか、危険な遊びをしていないかを常に注意し、事故を未然に防ぐようにしている</li> <li>・ けがや事故の発生、体調不良の場合は直ちに園長に報告、家庭に連絡し適切な処置をしている</li> <li>・ 一人ひとりの幼児の発達の姿、課題などを総合的、多面的に観察し理解している</li> <li>・ 幼児と心を通わす関わりを心がけ、思いを受け止め、心情をも理解している</li> <li>・ 目立つ幼児の動きと同時に、目立たない幼児にも気を配っている</li> <li>・ 幼児の興味や関心、目線に共感しながら一緒に楽しく</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常に幼児の表情や言動に目を向け、状況に応じて子どもに声を掛け、様子が違うときは他の保育者に相談した。</li> <li>・ 体調面だけでなく、子どもの内面にも心を配るよう心掛けた。</li> <li>・ 幼児の細やかな思いを受け止め、寄り添い、ともに考えていくことで、子どもとの信頼関係を築いていけるようにした。</li> <li>・ 教師の動きで連携が取れていな</li> </ul>

<p>応</p>	<p>遊んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の話を誠実に聴き、わかりやすい言葉で話している</li> <li>・ 幼児をほめたり、励ましたり、意欲を持たせたりしている</li> <li>・ 禁止、命令、急がせるなどの言葉や態度はできるだけ控えている</li> <li>・ 幼児同士のトラブル、対立などには適切な対応で解決している</li> <li>・ 幼児の一人ひとりについて保育者同士でクラスを越えて情報を共有し幼児に対応している</li> <li>・ 他のクラスの幼児と関わられるように遊びの形態などを工夫している</li> <li>・ 特別な支援を要する幼児に対しては教職員全員が理解し、専門機関などとの連携で適切な対応をしている</li> <li>・ 特別な支援を要する幼児の保育には保護者の願いや希望を理解し、相互の信頼に立って誠実に行っている</li> </ul>	<p>いと感じたときには職員会議やその場で確認をしていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな時も子どもの目線に立って考えをくみ取り、共感してきた。</li> <li>・ 喧嘩の際は善悪を決めつけず、互いの思いを聞き受け止めたうえで、話をしていた。</li> <li>・ 幼児を褒める機会をたくさん作り、幼児が何事にも意欲や自信を持って過ごせるようにした。</li> <li>・ 幼児の興味関心に共感し、心を響かせ合いながら、ともに楽しく過ごすことができた。</li> <li>・ 子どもと丁寧にかかわろうとするあまりしつこくなることや、子どもとしっかり向き合えず、悲しい思いをさせてしまうことがあった。</li> <li>・ 毎日の打ち合わせで、他のクラスの子どもの姿を伝えたり聞いたりして、園全体の様子を感じながら保育を行うことができた。</li> <li>・ 特別な支援を必要とする幼児の保育では、保育者間で情報を共有し、一人ひとりにあった関わり方や援助を行えるようにした。</li> <li>・ 保護者と家庭での様子、園の姿を共有し、必要に応じて療育機関等のアドバイスもいただきながら、支援の仕方を考えてきた。</li> </ul>
<p>3 教師としての資質・能力・研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教諭としての専門知識や技能を高めようと意欲的に研修をしている</li> <li>・ 保護者に対して保育や幼児の様子などについてわかりやすく話し、親しみと信頼を得るように努めている</li> <li>・ 表情を明るくし、元気な声での挨拶やお礼の言葉を、心を込めて行なっている</li> <li>・ 服装、髪型、身だしなみなど保育に適切な清潔感を心がけている</li> <li>・ 職務上知り得たプライバシーに関する情報、園の内部の情報などについての秘密を守っている</li> <li>・ 公の金品、現金などの管理は間違えないよう正確に行っている</li> <li>・ 園の重要書類や教具、教材などは園外に持ち出さない</li> <li>・ 保育室はもちろん、園内外の清掃、整理整頓、施錠、火気の点検などを行っている</li> <li>・ 教職員全員で保育をしているひとつのチームであることを常に意識している</li> <li>・ 会議や研修の話し合いを大切にし、自分の意見を述べたり人の意見を聴いたりしている</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会に積極的に参加し、学んだことを実践するなど積極的に取り組んだ</li> <li>・ 昨年度の反省や研修での学びを生かし、保護者と関わる機会を多く設けるようにした。</li> <li>・ 教職員全員がチームであることを意識していたが、保育の相談などもっと協力してもらうこともできたが、そこまでに至らなかった。</li> <li>・ 新任の保育者が多くいたことで、指導をする立場になる場面が多くあったが、それぞれの状況や悩みを理解して一人ひとりに合った指導をしていくことの難しさを感じることがあった。</li> <li>・ 職員会議等で決めた当番や役割分担は責任を持って取り組み、手が空いているときには他の保育者</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの結果、決まったことには協力して実行している</li> <li>決まった当番・役割分担については責任を持って実行している</li> <li>保育や、保護者との関係での悩みや問題などは、早めに園長や主任に報告、連絡、相談をしている</li> <li>自然や社会、芸術や文化に対して興味を持ち保育に生かしている</li> <li>神様に対する畏敬と感謝の心を持ち、保育に喜びと使命を持っている</li> </ul>		<p>の仕事を手伝うなど、連携して取り組むよう心がけたが、思うように仕事を進められず、行き詰って他の保育者に迷惑をかけてしまうこともあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育についての悩みは、先輩の保育者や園長に報告、連絡、相談をするようにしてきた。次年度も保育者間で連携を取りながら、保育をしていきたい。</li> <li>新任保育者への指導や配慮が不十分だったと感じた。</li> <li>預かり保育担当として、預かった料金や両替金はしっかりと施錠し厳重に管理した。</li> <li>神さまがいつもそばにいて守ってくださっていること、すべてが神さまのご計画であることを心に留めて保育にあたっている。</li> </ul>
4 保 護 者 へ の 対 応	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育についての考え、幼児の様子などを分かりやすく親しみを持って話し、伝えている</li> <li>「子育て」についての諸々の悩みや相談に心を開いて対応できるように、電話や連絡帳、家庭訪問、懇談会などを積極的に活用している</li> <li>「保護者と教師の会」などの主体性を大事にし、援助、協力、相談に応じている</li> <li>すべての保護者に対して偏見をもたず、保育者として社会人としてのマナーを守り、節度ある落ち着いた対応をしている</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長に伴う姿を伝えて行ったが、不十分だったため、保護者の理解が得られないことがあった。</li> <li>子ども同様保護者も一人ひとりが大切な存在であると感じ、どの保護者とも心を開き、マナーを守って関わり、信頼してもらえるよう心がけた。</li> <li>連絡帳では、幼児の様子をお伝えするのと同時に、子育ての悩みにも、返事をしっかりできるようにした。難しいところは先輩保育者に相談し、文章で伝えにくいところは口頭で伝えるなどした。</li> </ul>
5 外 部 と の か か わ り	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所や小学校の保育や教育に関心を持って研修し幼稚園との連携の必要性を理解している</li> <li>地域での「子育て支援」の大切さや内容に関心を持っている</li> <li>「たんぽぽ広場」の大切さを理解し役割分担を積極的に行っている</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼保小連携については、研修に参加して学び、職員会議などでその学びを共有した。</li> <li>幼稚園だけでなく地域全体がひとつとなつて、地域の親子を支援していく大切さを知り、地域で繋がっていく機会は今後も積極的に参加していきたい。</li> <li>たんぽぽ広場を通して、子どもが楽しいと思えるよう、役割分担をし積極的に行なってきたが、主なる遊びの進行に関わることが少なかったため、次年度は積極的に関わっていきたい。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの育ちにふさわしい環境について考え、環</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚優位の子どもたちが多かつ</li> </ul>

環境に関して	<p>境整備を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭、畑、花壇、砂場、樹木、遊具などが幼児にとってどのような意味を持つのかを理解し、保育に活用している</li> <li>・ 草花、野菜、虫などの生き物の成長や季節の変化などを考慮し保育に生かしている</li> </ul>	A	<p>たため、どの子にもわかりやすいよう絵や写真を使って伝え、スケジュール表を掲示して、一日の流れが分かるような工夫をし、子どもたちもスケジュール表を見て自ら動けるようになっていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畑づくりやプランターでの栽培、花壇の花苗や球根植えなどを通し、成長の喜びや成長させてくださる神さまを感じられるようにした。</li> <li>・ 自然物を使ったごっこ遊びや虫探し、雪遊びなど、季節を感じながら保育者も一緒に楽しんで行った。</li> <li>・ 赤い実公園の広さを生かして鬼ごっこをしたり、木の実や落ち葉集めなど、季節の遊びを楽しんだ。</li> </ul>
7その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めての社会人として桑園幼稚園の教諭が自分の仕事であること、保育者と言う仕事に対する意識が足りず、子どもたちや職員に迷惑をかけてしまい反省することが多かった。たくさん支えられて一年過ごせたので、来年度は子どもたちや保育者のために動いて行けるよう心がけたい。</li> <li>・ 一年の保育を振り返った時に、こういう声掛けのほうがよかったのではないかと、もう少し工夫して保育や支援が出来たのではないかと、等まだまだ学んでいくべき点や課題があることを感じた。</li> <li>・ 分からないことは多いとしても、理解に努める積極的な姿勢にかけていたことが反省点である。</li> <li>・ 一人ひとりの育ちに合った保育をしていくことや、友だちと関わる喜びをどう伝えていくかを考えてきたが、うまく伝えられないことも多かった。</li> <li>・ 一年目として、わからないことや至らないことばかりだったが、先輩保育者からの助言や子どもから、保育者として、人として大切なことを学ぶことができた。神さまからのみ言葉や聖書研究からも多くの事を教えていただき、今までの自分と照らし合わせ考え、新しい発見をすることができた。</li> <li>・ 2年目になり保育を行っていく中で、以前より視野を広く持つことができた。また新たな課題もあり、自分の中できちんと振り返り、次年度に生かせるようにしていく。</li> <li>・ キリスト教保育者として、自分自身が神さまに守られ愛されているのだということを感じ、子どもたちのことを愛し、一人ひとりの大切さを伝えていきたい。</li> <li>・ 今年度は若手リーダーとして、新任保育者にアドバイスする場面が多くあったが難しさも感じた。しかし、そのことを通して自分自身を見直すきっかけにもなった。</li> <li>・ キリスト教保育や神さまと自分の関係などについて、深く考えるようになった。これからも「神さまに選ばれた、キリスト教保育を行う者」として成長して行きたいと思う。</li> <li>・ 教職員間の相談を受けたり、フォローをすることが多かったが、お互いの思いを受け止めながら助言をすることのむずかしさを感じた。今後も若い保育者を少しでも支えていくことができれば、と思う。</li> <li>・ 新制度に移行したが、保育内容は変わることなく行うことができた。保育者の人数も増えたが、そのことが子どもたちにとっての丁寧な保育にはつながらなかった。連携のむずかしさ、新任保育者に園の保育を理解できるよう伝えられなかった。指導教諭の立場としてどのように保育者に伝えていくか次年度に向けて考えたい。</li> <li>・ 職員の数が増えたことで、本園が培ってきた歴史やキリスト教保育の理念、保育の質が損なわれることのないよう、保育者間の連携を図り、保育に必要な知識や情報を共有しながら保育の質を守っていきたい。</li> <li>・ 新制度移行による保育者の増員と退職者の補充により、新任保育者が5名と保育者のほぼ半数を占める中で保育を行ってきた。新任保育者は、夢がかなって子どもと共に過ごせる喜びと同時に、その</li> </ul>		

<p>責任の重さや保育の難しさなども感じながら過ごす一年であった。2年目、3年目の保育者たちは、一年目の保育者の力になれるように心がけ努力していたことが伝わってくる。その若い集団を、管理職や経験のある保育者がどれだけ指導し、支えて来られたかと考えるとき、年齢差、経験差が大きいだけに、十分なことができていなかったのではないかと考える。様々な思いを持ちながらも、子どもたちのためにできることを精一杯行いたいという思いを一人ひとりが持ち、神さまによってここに招かれた一員であることを自覚して保育を行うことができたのは、キリスト教保育という基盤があるからこそであり、思いを合わせ、同じ方を向いて保育ができたことは感謝である。</p>
---

#### 4. 財務状況

公認会計士監査、監事監査により、適正に運営されていると認められている。

#### 5. 安全管理

防火管理者、衛生管理者を置き、管理を行っている。

年3回の避難、防災訓練と、年2回の学校薬剤師による環境検査も行い、指摘事項なし。

現金やマイナンバーの管理なども、厳重に管理している。

#### 6. 次年度の課題

課題	取り組み内容
保育者の資質向上と保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、新採用1名以外は皆経験のある保育者になるので、まだまだ若い保育者集団ではあるが、各自の経験やお互いの良さを認め生かし合いながら、保育を行っていききたい。</li> <li>・キリスト教保育についてともに学び、何よりもまず保育者自身が神さまから愛されていることを感じ、私たちに向けられているメッセージをしっかりと聴き、求めながら過ごしていきたい。</li> <li>・チームとして協力し、支え合うとともに、一人ひとりが自分の得手不得手をしっかりと把握し、良さを伸ばしつつ、足りないところはしっかりと学び、努力して、技術面においても向上するよう心がけたい。</li> </ul>
保育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが日々気持ちよく安全に生活できるよう環境を整え、保育を行いたい。また、園舎内外の整理整頓、清掃などにも引き続き配慮していく。</li> </ul>
満3歳児保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軌道に乗ってきた満3歳児保育であるが、新制度移行により、誕生日前の子どもは預かり保育として利用できるため、単発の利用が可能になった分、保育の組み立てや子どもへの育ちを継続して観ていくことが難しくなっている。それらのことを踏まえ、今後の環境構成や保育をどう行っていくかが課題である。</li> </ul>

#### 7. 学校評価委員会の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任保育者が多い中で、お互いによくコミュニケーションを取り保育を行っていたと感じる。</li> <li>・努力していることが大切であり、それが力となり育ちにつながる。謙虚さも大切だが、もっと自信を持ってよいと感じる。</li> <li>・経験の少ない保育者も、新任保育者をリード、指導する立場となり、お互いに成長できたことが伝わってきた。</li> <li>・新任保育者の成長を、先輩保育者、理解ある保護者が支え育てる、広く寛容な心が桑園幼稚園にはあると感じる。</li> <li>・若い保育者を支えるベテランの努力を感じる。</li> <li>・チームワークの良さがきめ細かな保育にしっかりと活かされている。</li> </ul>

- ・子どもを丁寧にきめ細かく見て保育を行っている。
- ・祈りのある生活が、子どもたちにとって大事なことに真剣に向き合いともに心をひとつにする姿勢を育んできたと思う。
- ・幼児期を幼児らしくゆったりと過ごす生活がある。
- ・支援や配慮の必要な子どもたち、さまざまな個性を持つ子どもたちが在園することの豊かさを感じ、そのことが子どもがともに生きるものへと育つことにつながっていくと考える。
- ・神と人を愛し、愛され、豊かに生きることへの種が蒔かれていると感じる。
- ・卒園しても卒園児やその保護者をフォローし続けていることに素晴らしさを感じる。(休校日の受け入れ、ぶどうの会、学校行事への保育者の参加など)
- ・教会、日曜学校の奉仕も気持ちよく行っており、感謝したい。
- ・今年度の状況は桑園幼稚園にとって良い経験であり、そこから得られた課題はさらなる発展につながるものと思う。
- ・時代の流れが目まぐるしく変わっても、95年間変わらずにキリスト教精神を尊び、信念を持って保育を続けている幼稚園である。

#### 評価について

A	・十分できている
B	・できている
C	・取り組まれているが十分ではない
D	・できていない